

今月の偉人

【道元】

道元は、鎌倉時代の禅僧で、日本に曹洞宗を広めた有名なお坊さんです。西暦千二百年一月二日に京都に生まれました。三歳の時お父さんを、八歳の時お母さんを亡くしました。そして、おじさんの家で育てられ、十三歳で出家し、天台宗や臨済宗を学びました。しかし、納得できず、宗(当時の中国)にわたつて学びました。そこで、天童如浄(浄禅師)という偉いお坊さんにつき、名利を求めずただひたすら座禅をして心を磨くことを教わりました。四年間宗で学び、日本に帰ってきました。越前の国(今の福井県)に永平寺という立派なお寺を建て、曹洞宗を開きました。執権北条時頼からは土地の寄進の話があつたり、後嵯峨天皇から紫衣を賜りましたが、「仏法者は、衣鉢のほかは財をもつべからず」といつて質素に心を磨き、只管打座を貫きました。多くの本も書き、たくさんの立派な人を育てました。正法眼蔵という本は八十七巻あるそうです。人間が幸せになるための心の持ち方を教えています。心を磨くことでまず大切なのは、毎日の生活をきちんとすることだと教えています。朝、顔を洗うことも、道元が教えて広まったのだそうです。次の言葉は、道元禅師の言つた言葉です。道元禅師の言つた言葉は、今でも私達の生活の中に生かされているのです。

大自然のめぐみ

米も野菜も命です  
肉も魚もいのちです  
これらのいのちのおかげで

私達のいのちも生かされています  
「いただきます」「ごちそうさま」  
尊いいのちに感謝して  
食事をいただきますしよ



はきものをそろえる

はきものをそろえると 心もそろ  
心がそろると はきものがそろ  
ぬぐとき そろえておくと  
はく時 ころろがみだれない  
だれかが みだしておいたら  
だまって そろえておいてあげましよう  
そろすればきつと 世界中の人の心も  
そろうでしょう



子育てワンポイントアドバイス

『食事のしつけ』



食事は、楽しい楽しい雰囲気をつくって喜びながら食べることが大切です。子供の食欲不振や、好き嫌いやら、消化不良やらをただうわべだけみて、直してやろうとしてもなかなか直りません。心の世界に原因があるのです。まず、料理しているときの心構えです。料理を単なる「食べもの」というもの(物質)を作る単調

な仕事と考えてはならないのです。この食べものを通して料理をしているときの「何とかして、父母や、夫や、子供達を喜ばしてやりたい」という愛の思いが伝わって、そして、家族の人を生かしているのです。

食べる時は、「おいしい、おいしい、とてもおいしい」と讚嘆します。これが偏食をなくすコツです。親の好き嫌いや不平や、不満や口汚い言葉が、胃腸の消化を悪くしているのです。

ご仏壇を敬う心

五年生になった孫の樹は生まれた時から、母親(長女)と実家に来た時は、先ず、ご先祖様の居られるご仏壇に手を合わせて、ご挨拶することが習慣となつていたため、寺子屋へ通う為に神戸に来ていながらも、まず、ご仏壇のろうそくに火をつけ、線香を立て手を合わせてお祈りしています。小さい頃は、二つ上の姉とろうそくの火をつけるのを競争し合つたりして、火をつけることのみに興味をもっているように見える時もありました。

先月のオーブン寺子屋の時も姉は中学の部活のため、樹一人の参加となり、家でプラモデルを作っている時の事です。ふと伸ばした足が仏壇の棚に当たつたらしく、あわててお線香を立てて、手を合わせていました。おそらく、大切なご先祖様のいるご仏壇に足があたつて「ごめんなさい」の気持ちだったのではないかと思うと、何だか心が温かく、反抗的になつたり、偉そうに言うこともあるのですが、心の奥の優しさがみてとれ、嬉しくなりました。「継続は力なり」です。月に一回の寺子屋に通い始めて二年になります。これからも、内なる素晴らしさを発揮するのを楽しみにしています。(岩崎美智代)

# 九月 和歌コーナー



【八月のオープン寺子屋で、一番心に残ったこと  
らくご(S男)】

じゅげむ(T男)

お茶がおいしかった(S太)

お茶を作らせてくれたこと(Y子)

まっ茶がおいしかったこと(U子)

お茶をのんだこと(R子)

お茶をちよつと作れてよかった(A子)

最後に茶せんでませたよ(T子)

落語で福若さんが飛び出るところに驚いた(I男)

(アンケートより)

【和歌でもできました】

てらこやで おちやをのんだよ

シロップいれなくても おいしかったよ

小学二年 J・R

☆抹茶のまろやかな味がわかるなんてさすがです  
ね。

てらこやで おちやをのんだよ

おいしかった もつとできたらいいのになあ

小学三年 M・A

☆初めての和歌、すなおな気持ちを表現できまし  
たね。また、お茶会ができたらいいですね。

てらこやで ちゃせんでませた たのしかったよ

またのみたいな たのしみだなあ

小学三年 Y・T

☆自分で茶せんでまぜてみたのですね。うまくあ  
わはたちましたか？また、やりましょうね。

てらこやで おちやをのんだ にながかった

シロップ入れて おいしくなったよ

小学四年 Y・H

☆シロップを入れてもらってよかったですね。や  
さしいお心もいただけましたね。

てらこやで おちやをのんだよ おいしかった

シロップ入れて あまくなつたよ

小学四年 N・U

☆みんなでお茶をいただいて、楽しかったですね。  
シロップを入れたらあまかったでしょう。

夏休み 海に行つて やけどした

いろいろあつた でも楽しかった

小学五年 T・I

☆夏の砂浜は熱いものね。やけどするほどだった  
とは…でもみな、楽しい思い出になりましたね。

寺子屋は 茶席となれり

静かなる空気流れて 一服のお茶

床の花 今朝咲き初めし ひまわりや

茶席設ける 人のまごころ

義母様の 遺品の茶碗 新しき

先ず子らにとの お心尊し

茶を飲んで 笑顔を交わす 寺子屋に

集える人の ただありがたき

藤波礼子

八月のオープン寺子屋では、落語やお茶の先生方  
に大変お世話になりました。子供達の為に何日も前  
から、色々準備して下さいました。

心より御礼申し上げます。

## 今月の言葉

他人の愁を見ては

すなわち自ら共に患うべし

他人の喜びを聞いては

すなわち自ら共によろこぶべし

(現代語訳)

他人が悲しんでいるのを見たならば、

自分も一緒に悲しみなさい。

他人が喜んでる声を聞いたならば、

自分も一緒に喜びなさい。

今回は 十月二十七日(土)です。お楽しみに！

(文責・藤波)